



石山寺の萩

大飯原発の再稼働は福井地裁判決をふまえて



三日月知事と沢田議員

知事選挙後 初めての県議会は、多くの傍聴者を迎えて開会しました。三日月大造知事が、明治時代に足尾銅山の鉱毒事件を公害問題として取組んだ田中正造翁の名を引用し「真の文明は、山を荒らす、川を荒らす、村を破らす、人を殺さざるべし。」を胸に刻み、対応をする」と述べられました。

私は、5月末に井戸謙一弁護士との講演「福井地裁の判決が語るもの」などを聴き、福島原発事故をエネルギー問題に留めることなく、人格権とどう向き、生命や地域が継承できない経済優先の政策には限界があること、だれかを犠牲にした「発展」は許されないことだと考えて、対話の会、しがねつとの代表質問を行いました。

万二の放射能漏れ事故から 滋賀県民や琵琶湖を守るために

質問原稿抜粋

この知事選挙では、従来以上に知事選挙の重大性を感じた方が多くおられます。幼い子どもを育てている若い世代の女性や、今後の滋賀県のがたを今の福島県の惨状に照らし合わせて、選挙でどんな考えの人を選ぶか、一人ひとりの一票の重みを痛感し、初めて選挙というものにかかわってみたいという人たちがおられます。自らの主体的な意思で参加し、とても頑張ってくださいました。また、少子化対策を推進されるのなら、まず、原発事故を心配する必要がなく、安心して子育てできるように、7月13日を分岐点とすると、原発から脱却することを選びたいと思われた方々の連帯が生まれました。

福島県の被害者のみなさんの見通しのない仮設生活の困難さや、ホットスポットの住民の不安、福島第一原発の非常に高い放射線量の中で実際に工事に当たっておられる人々のことなどが、他人事としてではなく、自分の問題として、真剣に考えておられるのです。福井の原発に近い滋賀県民は、

3.11の反省を込めて、投票されたのではないのでしょうか。(中略)

ところで、5月21日の福井地裁の判決では、大飯原発再稼働に関して、半径250km圏内に居住する者は、直接的に人格権が侵害される具体的危険があり、差し止め請求は妥当であるとされています。また、判決文には、「人格権は憲法上の権利であり、人の生命を基礎とするものであるがゆえに、我が国の法制下においては、これを越える価値を他に見出すことはできない」とも述べられており、滋賀県民はすっぽりその圏域に入っています。

影響を受ける住民が理解すればよいことなのか、それとも責任をもって判断すべき国に対し、住民保護を規制基準の対象にすべきと強く指摘するべきことなのか、福島事故から3年4か月を経た現状を直視して、私たち一人ひとりよく考えなくてはならない。これまで3年余、嘉田知事が滋賀県民と琵琶湖を放射能汚染から守るため「卒原発」で奮闘されたが、三日月知事は、どのような観点から原発の問題を考え、どのように卒原発に取り組んでいくのか伺います。

井戸弁護士講演資料「福井地裁の判決が語るもの」より

判断内容(1)	判断内容(2)
<ul style="list-style-type: none"> 1260ガル以上の地震動が震う可能性を否定できない。 日本で最大の地震動は4072ガル(前半宮内陸地震 M9.0 14 M7.2) 原発敷地(岩手)での最大地震動は1699ガル(中越沖地震 M9.1 16) 過去のデータは極めて限られている。 「既往最大」という概念自体が、有史以来最大というのではなく、近時の我が国において最大というものにすぎない。 基準地震動(2005年)から5割 中央防災会議は活断層が確認されていなくても7割を想定すべきとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 700~1260ガルの地震動が震うことで発生した場合は、メルタウンにおいては重大事故を避け得ない。 すべての事業を取り止めることが望ましい。 適切な速に予定の措置をとることを従業員に求めるのは困難。 何が起きているのかは不明である。 メルタウンまで進むか不明である。 琵琶湖は豊後から湖東に運搬できない。 防衛のシステム自体の信頼も想定すべき。 放射能によって近づくとすべからざる。 施設外部からの支援も期待できない。 安全余裕にかけるとはできない。

判断内容(3)	判断内容(4)	大飯3、4号は今後どうなるか
<ul style="list-style-type: none"> 700ガル以下の地震動が震ったとき 外部電源喪失、主給水ポンプ破損は想定済み(いずれも耐震Bクラス) 非常用発電機があればいいのか?補助給水設備があればいいのか? (2010.6.17 福島第一原発2号機 外部電源、非常用電源ともダウン 水位が2m低下、15分後にディーゼル発電機が起動し、メルタウンを免れた) 	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み核燃料プールの危険性 大飯原発(1350t 管理容量は2020t) 建屋内の格納容器の外の水筒内に置かれている。放射能の漏れを防止する格納容器のような堅固な設備がない。 使用済み核燃料プールの耐震クラスはBクラスにすぎない。全交流電源喪失から3日で危機的状態に陥る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関電は控訴した。判決の確定までは時間がかかる。 規制委員会で適性判断が出て、地元首長の同意が得られれば、関電は再稼働できる。 判決で運転を禁じられた原発の再稼働を本気に強行できるか⇒それを許すのか、市民の側が問われている。

県議会 控室へ、気軽に越してください。
直通電話 077-528-4057

会派活動

4/15

大津赤十字病院で研修

ホールボディカウンタは、体内に取り込まれた放射性物質を測定できる装置。導入の目的は、



ホールボディカウンタの測定装置

1 福島第一原発事故の県内避難者を無料検査(要申込)
2 福井県で原発事故が万一起きた場合、内部被ばく線量の検査に対応できる体制整備。
3 日常生活における内部被ばく線量を知りたい希望者への健診。
基幹災害拠点病院としての「災害備蓄倉庫」や、自家発電の設備、340トンの井戸水を貯める貯水施設なども見学した。



5/12

県立淡海学園で研修

豊かな自然の中で共同生活しながら、学習、クラブ活動等を行い、精神力と体力を身につけるよう、生徒たちの社会自立に向けた支援を行っている学園。生徒たちは、職員夫婦と共に生活し、炊事や畑作業を協働しながら、責任を果たすことの大切さや厳しさ、喜びを学ぶ。職員確保が課題。



県立淡海学園の研修風景

県立ろう話学校で研修

手話を使うだけでなく、口の動きや顔の表情、手の動きなどで読み取る手話以外のコミュニケーション力と、生徒が社会に出た時、手話を言語として、しっかりと意思を示せる手話教育の重要性を感じた。



県立ろう話学校の研修風景

5/22 しみんふくしの家で研修

在宅介護支援事業や訪問介護、介護予防事業、グループリビング、学童保育事業を展開。市民福祉活動の先駆的存在で、常に利用者の立場に立ったサービスや居場所づくりを提供。福祉、医療、介護、教育、行政の専門分野が連携して市民が積極的に関わっている。課題は、専門職の人材確保、宿泊型サービスの必要性、後継者の育成などを伺った。

あじとうふくしモールで研修

高齢者や知的障がい者等が働く「働き心援助施設」、介護を必要とする方とその家族の暮らしを応援する「高齢者施設」、食を支える「農家レストラン」を展開。市民共同ソーラー発電や時ストープなど、持続可能なエネルギーの取り組みと、福祉食の地産地消などをモデル化した好事例として注目されている。



あじとうふくしモールの研修風景

MIHOMUSEUMで研修



世界中から注目されている美術館で、作品の見せ方、貯蔵品の保管管理、修復技術などを見学。電気自動車や、高さ調節できる車椅子など、環境福祉への工夫もされており、県内3館連携の推進など、高いコンセプトは、新美術館構想への参考となった。



7/16 7月定例会議に上程される案件を聴取。



7月定例会議の聴取風景